

『2014 年上半期（1月～6月）JVA統計調査』について

当協会は9月17日(水)午後1時30分より、協会会議室において『2014 年上半期（1月～6月）JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2014 年上半期の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.78』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以上

2014 年上半期（1月～6月）の実績について

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は1046億9500万円で前年同期比87.0%となった。
そのうち、DVDビデオの売上金額は664億8900万円で前年同期比82.4%、ブルーレイは382億600万円で同96.4%となり、両フォーマットともに前年同期を割り込むこととなった。売上金額に占めるブルーレイの割合は前年同期の32.9%から36.5%に拡大している。
2. ビデオソフト全体（DVDビデオとブルーレイの合計）の売上金額を販売用、レンタル店用、業務用の流通チャネル別にみると、販売用が746億7300万円（前年同期比85.0%）、レンタル店用が295億2700万円（同92.4%）、業務用が4億9500万円（同84.8%）となり、いずれも前年同期を下回ることとなった。それぞれの割合は71.3対28.2対0.5で、販売用の売上金額の減少が大きかった分、レンタル店用の割合がやや増すこととなった（前年同期の割合は、順に73.0対26.6対0.5だった）。
3. 販売用全体（DVDビデオとブルーレイの合計）に占めるブルーレイの割合は48.0%となり、ほぼ半分を占めるようになった。
DVDビデオの販売用売上金額は、388億2400万円で前年同期比77.3%と大きく減少した。一方のブルーレイの販売用は358億4900万円で同95.5%となり、半期の売上金額において初めて前年同期を下回ることとなった。
また、販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比1位は『日本のアニメーション（一般向け）』で構成比35.4%を占めたが前年同期比89.1%、2位（構成比26.9%）

の『音楽（邦楽）』も同 79.6%、3位（同 8.6%）の『洋画』も同 74.5%、4位（同 5.1%）の『邦画』も同 65.0%となるなど、主だったジャンルにおいて前年同期を下回ることとなった。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション（一般向け）』が前年同期の 74.2%から 76.6%に、『洋画』は 47.2%→49.3%、『邦画』は 38.0%→38.8%と上昇しており、特に『音楽（邦楽）』は 24.2%→32.5%とその割合が大きく上昇した。

4. レンタル店用全体の総売上金額に占める DVD ビデオとブルーレイの構成比は、92.1 対 7.9 で、相変わらず圧倒的に DVD ビデオが占めている。ブルーレイのレンタル店用は 23 億 2200 万円で前年同期比 115.1%と伸長はしているものの、DVD ビデオのレンタル店用売上金額が 272 億 500 万円で同 90.8%と落ち込み、レンタル店用全体も前年同期を割り込むこととなった。

5. DVD ビデオのレンタル店用の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位（22.6%）の『日本のアニメーション（一般向け）』が前年同期比 89.5%、2 位（18.6%）の『洋画』が同 89.4%、第 3 位（15.8%）の『邦画』が同 94.5%、第 4 位（14.0%）の『アジアの TV ドラマ』が同 98.3%、第 5 位（12.1%）の『海外の TV ドラマ』が同 92.6%と軒並み前年同期を割り込んだ。

レンタル店用の出荷はレベニューシェアリングシステムの影響で、売上金額と売上数量のジャンル別構成は必ずしも一致しない。売上数量の構成比では、1 位は 29.9%を占める『アジアの TV ドラマ』、第 2 位（20.9%）は『洋画』、第 3 位（13.8%）は『海外の TV ドラマ』、第 4 位（11.5%）は『邦画』の順となっている。

以 上